

前田遺跡調査速報

三浦 武司

前田遺跡の概要

所在地：福島県伊達郡川俣町小綱木字前田

遺跡面積：16,300 m²

調査原因：国道 114 号改良工事に伴う発掘調査

調査期間：1次調査 平成 30 年 7 月 18 日～平成 30 年 12 月 14 日

2次調査 平成 31 年 4 月 18 日～令和 2 年 3 月 10 日

3次調査 令和 2 年 4 月 15 日～

調査面積：1次調査 2,200 m²

2次調査 1,500 m²

3次調査 2,450 m² (予定)

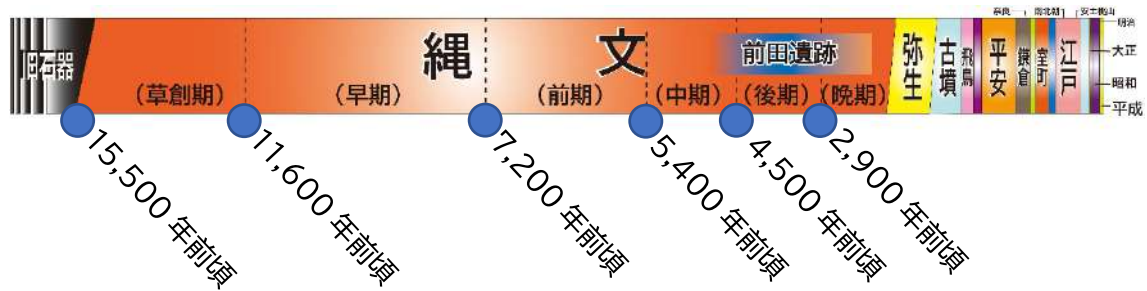
立地と環境

前田遺跡は、阿武隈川水系広瀬川支流の高根川北段丘上及び高根川からの幾度もの土石流や越流に伴う堆積により形成された扇状地形に立地しています。阿武隈高地西側の裾野に位置し、当時から中通りと浜通りをつなぐ交通の要所に位置していたとも考えられます。



年代・時期

前田遺跡は、主に縄文時代中期後葉から縄文時代晩期後葉の約2千年間にわたって営まれた遺跡です。



- 縄文時代中期後葉（4,800～4,500年前頃）の住居跡が主に見つかった範囲
- 縄文時代中期末葉（4,500年前頃）の住居跡が見つかった範囲
- 縄文時代後期初頭～後期前葉（4,400～4,000年前頃）のお墓の範囲
- 縄文時代後期後葉～縄文時代晩期後葉（3,200～2,700年前頃）の柱穴が主に見つかった範囲

小結

前田遺跡のもっとも特筆すべき特徴は、「出土品の『残り』が非常に良い」といことです。他の遺跡では、腐食して現在まで残ることが難しい漆器を含む木製品、縄文人骨、建築部材である木柱、縄文土器に付着した炭化物などが、類例がないほど豊富に見つかっています。道具や植物の種類や加工、割合などから、前田遺跡の当時の暮らしを復元することが可能となるでしょう。

今後、前田遺跡の土器や石器、住居跡やお墓、漆器を含む木製品などの分析研究を通して、福島県を含む東北南部の縄文人の生活の一端が明らかになっていくことも期待できます。今後も調査・研究は続いていきます。また、新たな事実も日々発見されていくことでしょう。前田遺跡の調査は、まだ『読み始めたばかり』なのです。

建物かモニュメントか？

～縄文時代晩期 柱穴群

調査区の中央部から東端にかけて、縄文時代晩期の柱穴が多く見つかりました。これらは、建物跡または柱列と考えられます。柱穴の中には、腐食しないで、良好な状態で木の柱が、約 140 本残っていました。

柱の多くは丸木材を用いていますが、半割材も見つかっています。先端を石器で掘り込んで溝を一巡している柱や直径 60 cm を超える柱も見つかっています。柱の材質は、主にクリ材と考えています。柱の周囲を礫や木材で固めて埋めている柱穴も見つかっています。柱の上部は、どのようなものであったのかは、気になるところです。



柱穴の調査状況



礫で柱の周囲を固めている柱穴



先端に溝が一巡する木柱



直径 60 cm を超える木柱

BONES 骨は語る

～縄文時代後期 縄文人の墓域

調査区の中央部から、縄文時代後期の墓域が見つかりました。穴を掘って人骨を埋葬した土壇墓、土器の中に人骨を埋葬した土器埋設遺構があります。

土壇墓から見つかった人骨は40体以上にのぼり、その多くは、縄文時代晩期の柱穴に壊されているため、人骨全身がきれいに残っているものは、数体のみです。

内陸部の遺跡で、縄文時代の人骨が見つかる例は非常に珍しく、出土人骨を詳細に研究することで、埋葬時の年齢や栄養状態、生活していた当時の前田遺跡の環境など、彼ら前田遺跡の人骨たちは、私たちに多くの情報を語ってくれることでしょう。



埋葬された縄文人（ほぼ全身が残る）



埋葬された縄文人（右手の一部が柱穴に壊されている）



土器の中に子供骨が残る



密集する土器埋設遺構

前田遺跡に暮らす 縄文人の住まい

～縄文時代中期 住居跡

縄文時代中期中葉から、中期末葉、後期前葉の住居跡が重複して重層的に見つかりました。

縄文時代中期後葉の住居跡は、調査区東で主に見つかっています。住居の平面形は円形を基調として造られています。炉は、住居の中央部に石組炉が造られています。この炉は、複式炉の初源と考えられます。この時期の住居跡に住んだ縄文人が、木胎漆器などを作成し使用した人々だと考えられます。

縄文時代中期末葉の住居跡は、調査区中央部から東端にかけて見つかっています。住居内には複式炉が造られています。この時期が、前田遺跡で最も集落が大きくなった時期と考えられます。



縄文時代中期後葉の住居跡



縄文時代中期末葉の住居跡



縄文時代中期中葉から後葉にかけての住居跡



住居跡の調査風景

COLORS よみがえる縄文時代の色彩

～縄文時代中期 低地部から出土した漆器類～

遺跡西の低地部からは、流木などとともに、縄文時代中期の木製品が多く見つかりました。低地部では、水と土壌によって微生物などの活動が抑制されるため、有機質遺物が遺存することがまれにあります。

前田遺跡は、漆塗された容器や木製品（弓・斧柄・刈り払い具・発火具）、竹類で編まれたカゴなどの網み組み製品など、当時の生活痕跡が非常によく残っていました。また、クルミ・クリなどの種実類、獣骨、昆虫なども見つかり、縄文人の生業や食糧事情などの解明につながります。さらに当時の気候や植生などの環境復元も可能となるでしょう。



木製品が多く出土した



大型木胎漆器把手付浅鉢（直径約 46 cm）



木胎漆器把手鉢
（口径約 16 cm × 13 cm）



編み組み製品